

Y4-25

手術室の効率的な運用を目指して
- 手術室TAタイムの延長原因を探る -

名古屋第二赤十字病院 看護部
高井 三枝

【1 はじめに】当院の手術件数は毎年増加の一途であり、この件数を行うには手術室の効率的な運用が必要である。経済効果を踏まえると稼働率を夜勤帯に求めるよりも日勤帯に稼働率を上げこれを維持することが最良の方法である。現在のターンアラウンド時間（手術患者退室から次の手術患者が入室するまでの時間：TAタイム）は平均25分に短縮されつつあった。しかし、手術室の24時間稼働率を見ると稼働率の夜勤帯へのずれ込みが見られた。スタッフからTAタイムの短縮には各単位の色々な理由があり、一律に標準化できない情報が得られた。今回は日勤帯の稼働率の低下を招き、標準化できないTAタイムの延長要因の把握に努めた。その結果を報告する。

【2 目的】日勤帯のTAタイムの延長の要因を明確にする

【3 調査方法および調査期間】1) 平均TAタイム（約30分）より延長した場合の遅れ原因を手術室リーダーが選択肢の中から選び調査した 2) この結果を基に現状と原因分析する 3) 調査期間 平成22年9月～11月
データ収集した内容は個人が特定されないように配慮し分析した

【4 結果・考察】この期間のTAタイム延長は8.5%（174件）の発生率であった。1日平均3件弱の発生率が立証された。要因者の理由としては執刀医の外來診療待ちや手術室の看護師不足、患者の入院待ちや循環器評価待ちが多く見られた。現時点での手術看護師不足によるTAタイム延長は22%（41件）あり、今後さらに増加する手術件数に対して大きな課題となることを予測した。稼働時間のピークタイムを日勤帯の早い時間で維持することも重要であると同時に、TAタイムが速やかにピークに戻る様な取り組みが手術室単体ではなく職種や枠組みを越えて考える必要性がある。

Y4-26

A病院看護職員のコスト意識

葛飾赤十字産院 看護部
村田亜紀子、小淵加奈枝、市岡 綾、
福島ゆり子、内木 美恵

【はじめに】看護職員が日々使用する医療材料の種類や数は膨大であり、必要のない医療材料の使用、文具用品・滅菌器具等の破損・紛失が見られる。今回、有益な看護サービスを提供するコスト管理を検討するために、看護職員の材料費と人件費に関するコスト意識・認識を明らかにすることを目的に調査をおこなった。

【方法】自記式アンケート調査を平成22年12月15日～31日に実施した。対象はA病院の看護師・助産師118名。内容は材料費、人件費などに関する質問30項目を5段階の間隔尺度を用いて尋ねた。その他、属性、材料費と人件費に関する原価選択の質問17項目であった。分析はSPSS ver.16.0を用いて記述統計、t検定を行った。倫理的配慮として、参加は自由意思であること等を書面で説明。データは数値化し、回答をもって同意とした。A病院の倫理審査を受け1009番にて承諾。

【結果】回答は76名（64%）であった。材料費に関するコスト意識では、5割以上のスタッフが医療資器材の値段を知らなかった。しかし、「水を出しっぱなしにしない」「使用しない場所の電気をつけない」などエネルギーの無駄使いに努めており、節約意識は持っていた。人件費に関するコスト意識では、NICUと産科病棟のスタッフの意識に有意差がみられた。また、「時間を工夫し効率よく仕事をしている」や「時間内に終わるように業務調整をしている」など効率よく仕事をする意識は、経営の研修に参加した群が高かった。

【おわりに】患者の看護に時間をかけたいという意識は高く、この時間にコストを投入していると考えられる。これは、質の高い看護を提供したいという意識からきていると考える。